

国際的なネットワーキングのすゝめ

京都大学の試み

L-INSIGHT（世界で活躍できる研究者戦略育成事業）

2024年3月8日(金)

京都大学
L-INSIGHTプログラムマネージャー
学術研究展開センター（KURA）
石川冬木

L-INSIGHT概要

目的

「世界視力」を備えた次世代トップ研究者育成プログラムのスタンダード・モデルを構築

世界視力：時間、地理、学問分野、セクター、文化圏などの境域を超えて見渡し、見抜き、見通す力

育成する次世代トップ研究者像：

- ・ 国際的に最先端の研究を牽引
- ・ 境界域あるいは新領域研究を開拓
- ・ 産業に新機軸をもたらし得るイノベティブな研究

対象

L-INSIGHTフェロー

世界で活躍する次世代トップ研究者を志す優秀な若手研究者を学内公募の上、毎年6~7名程度を選抜

方法

フェローが自身の内省・主体性に基づき、一連のプログラムから選択受講する「準テラーメイド型」

基幹プログラム

次世代トップ研究者の競争力・優位性の源泉となり得るマインドセットとスキルセットを理解・獲得する機会

CToPプログラム

基幹プログラムと実践プログラムの連結やプログラムでの経験と研究活動を繋ぐ機会

実践プログラム

世界水準の研究者との交流を積極的に創り、「世界視力コンピテンシー」に磨きをかける機会

活動促進支援

L-INSIGHT主催プログラム受講の支援、国際会議主催経費・旅費
国際誌の論文掲載費、オープンアクセス費等

京都大学が世界に誇る研究者に学ぶ (基幹プログラム)

フェローの要望を踏まえた企画

リーダーから将来のリーダーへ。少人数で方法論を伝授する枠組みを創出する

日本が世界に誇るトップ研究者が、フェローの研究者としての理想像や近い将来の目標を事前に知った上で、100%テラーメードでワークショップを構成する。

第1回

森 和俊 教授 (京都大学 理学研究科)

第2回

加納 学 教授 (京都大学 情報学研究科、クアドリティクス株式会社・共同創業者)



視聴回数は約1500回 (2/29閲覧)

オンデマンド動画配信 (京大チャンネル)

https://www.youtube.com/watch?v=PGa-XDsf_D8&t

【フェローのコメント】

- 成功体験ばかりが聞かれるイベントは多いが、このプログラムでは研究の先輩が本当に辛かったことを話してくれた。そうしたタイミングが来たら、今日の話を出そうと思う。(3期フェロー)
- 長期間成果が出ず、人も離れてしまったら、という最悪の状況の体験談から、自分ならどうするか、シミュレーションができたし、覚悟ができた。(2期フェロー)

第2回は、京都工芸繊維大学・神戸大学・大阪大学の若手研究者も参加対象に

名誉教授メンター制度 (CtoP)

累計 67回の実施 | 令和5年3月20日 時点

【活動の趣旨】

- 名誉教授が所属や分野を超えた中立的な立場でフェローと対話
- フェローの長期的目標の実現に向けてアドバイス

【内容と工夫】

- フェローが求める諸条件に適合する名誉教授を選出・マッチング

【フェローのコメント】

- 現在とは異なる時代の実例を聞いて、自分にとってタブー視していたやり方に可能性を見出す。(3期フェロー)
- これからことを成そうとする若手研究者と、偉大な研究者の間の人間関係。ルールは不要。(2期フェロー)
- ボスと異なる方面へと研究の幅を広げること躊躇していたが、背中を押してもらった。(1期フェロー)

【名誉教授とメンターの組み合わせ例】

本郷フェロー
(2期・保全科学・野生動物管学・霊長類生態学)



山極寿一 元総長
(総合地球環境学研究所長)



田中フェロー
(1期・土木工学・水文学)



寶馨
元総合生存学館長(防災科学技術研究所理事長)



R6 NSFxJST
SICORP

磯部フェロー
(1期・精神医学)



皆藤章
元教育学研究科教授(奈良県立医科大学特任教授)



グローバルフィールド起動プログラム (機関プログラム)

メルボルン大学研究者訪問

実施年度 R1, 2, 3 オンライン
R4 2/27-3/5 フェロー6名 & 学生2名

【活動の趣旨】

- 世界で活躍する研究者としての長期的な視座の獲得・自身の取り組むテーマの発展

【内容と工夫】

- 現地の専門家（疫学等）による講義と議論
- メルボルン大学が雇用するポスドクや近隣大学研究者との交流
- フェローが引率する大学院生が同行し、若手研究者間の交流

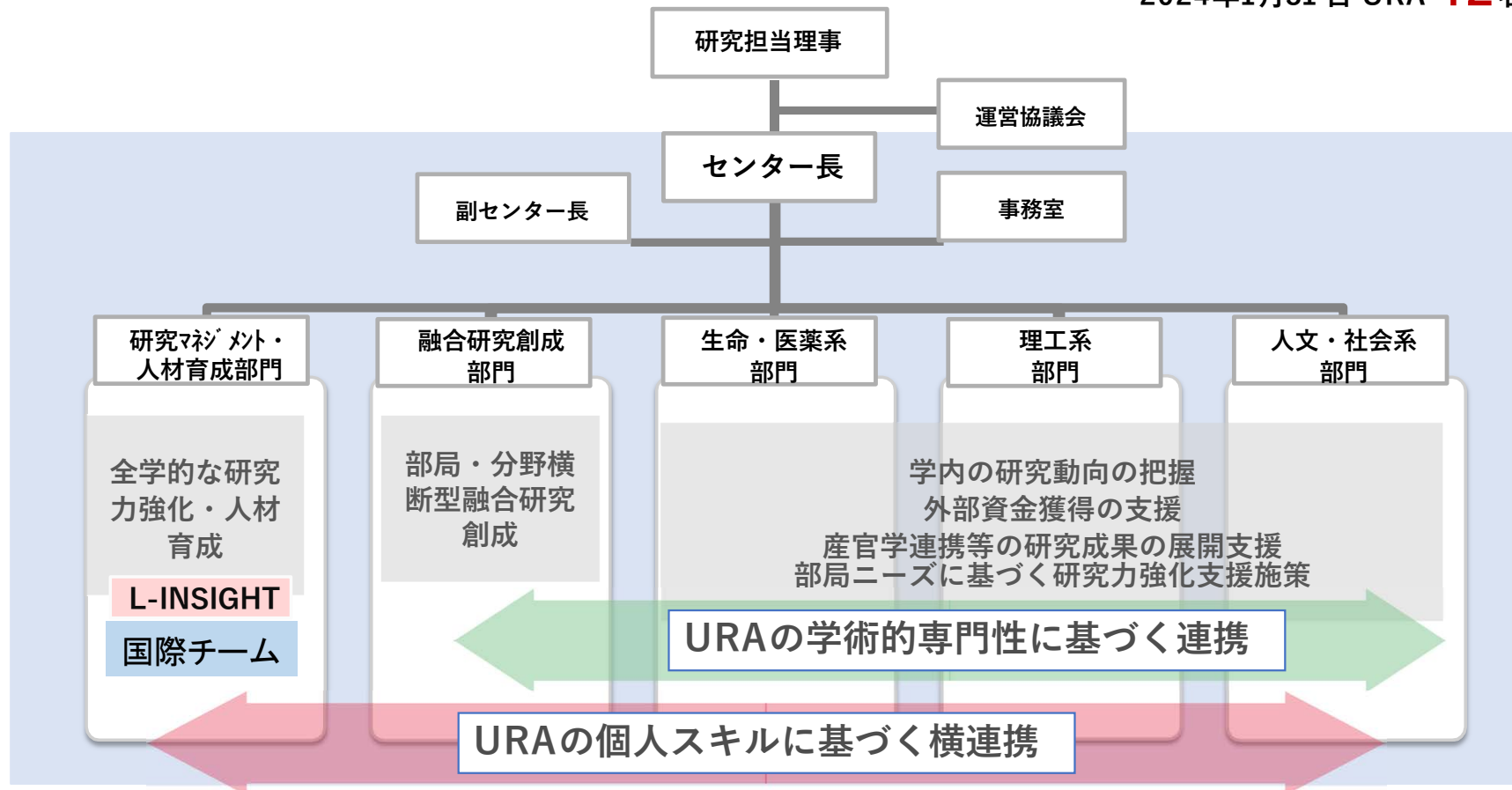
【フェローのコメント】

- 自分が長期的に取り組もうとしているテーマの大きな軸に価値があるのか、自信が持てずにいたが、豪州で多様な分野と世代の研究者から称賛され、これで行こうと決意を固めた。（FY2022）
- 研究成果を社会実装するために、「今、現地の人がどう考えているのか」を常に知り、積み上げていこうと新たな必要性に気づいた。（FY2022）

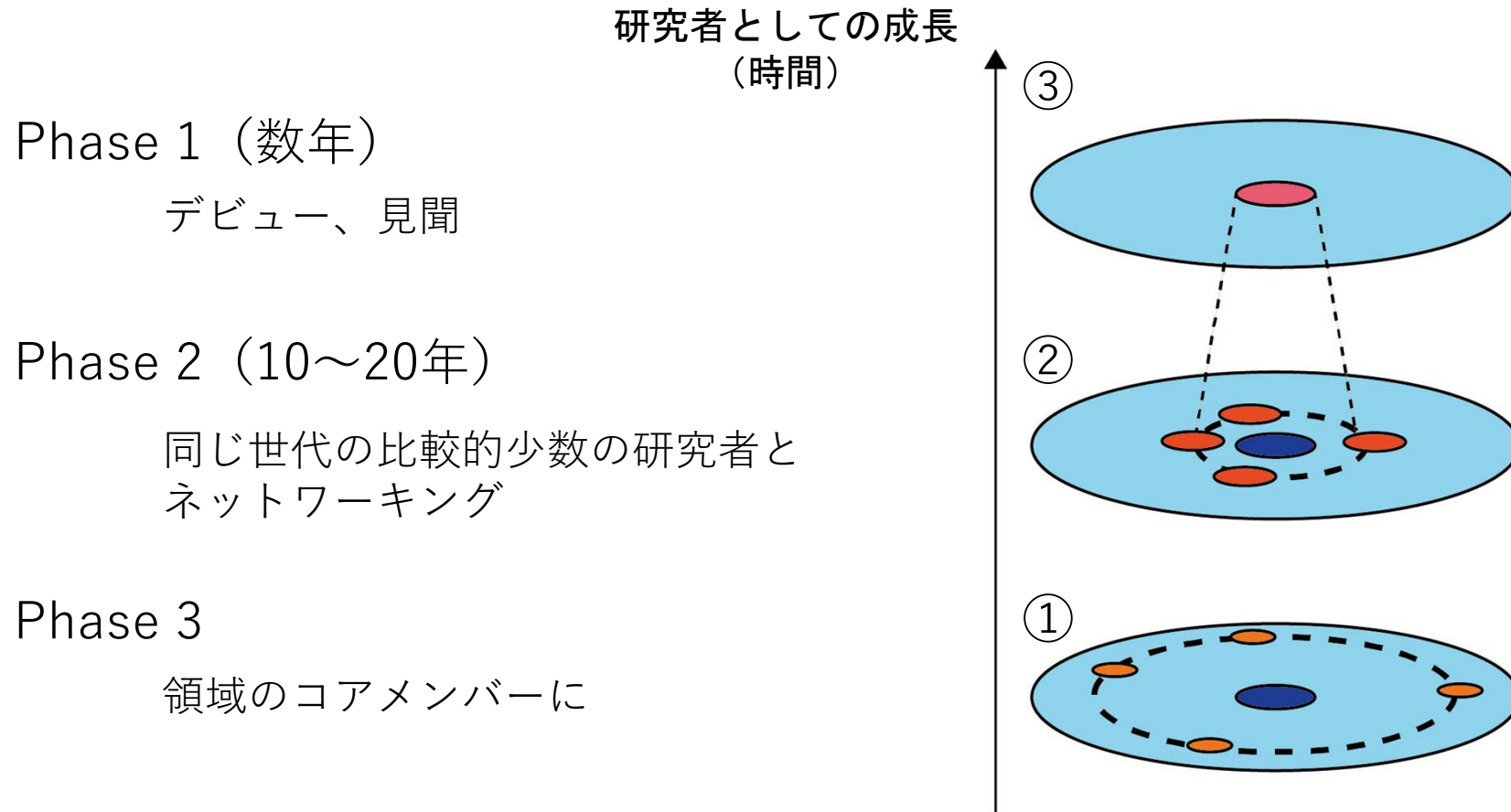


学術研究展開センター (KURA, Kyoto University Research Administration)

2024年1月31日 URA **42**名



研究者が国際ネットワークを作るには



研究者が国際ネットワークを作るには

研究者としての成長
(時間)

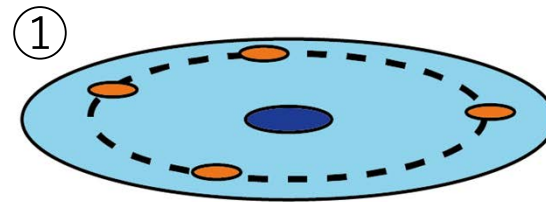
Phase 1 (数年)

デビュー、見聞

自分の得意とする研究スタイルをアピール
(名刺代わり)

同じ年代の優秀な研究者を捜す、知り合いになる

科学哲学など一般的な常識をつける



研究者が国際ネットワークを作るには

研究者としての成長
(時間)

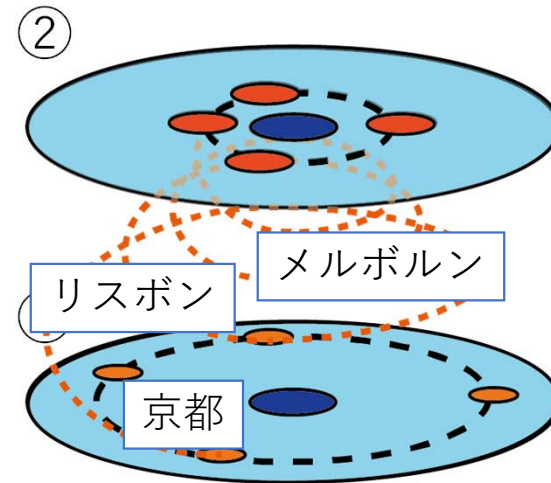
Phase 1 (数年)

デビュー、見聞

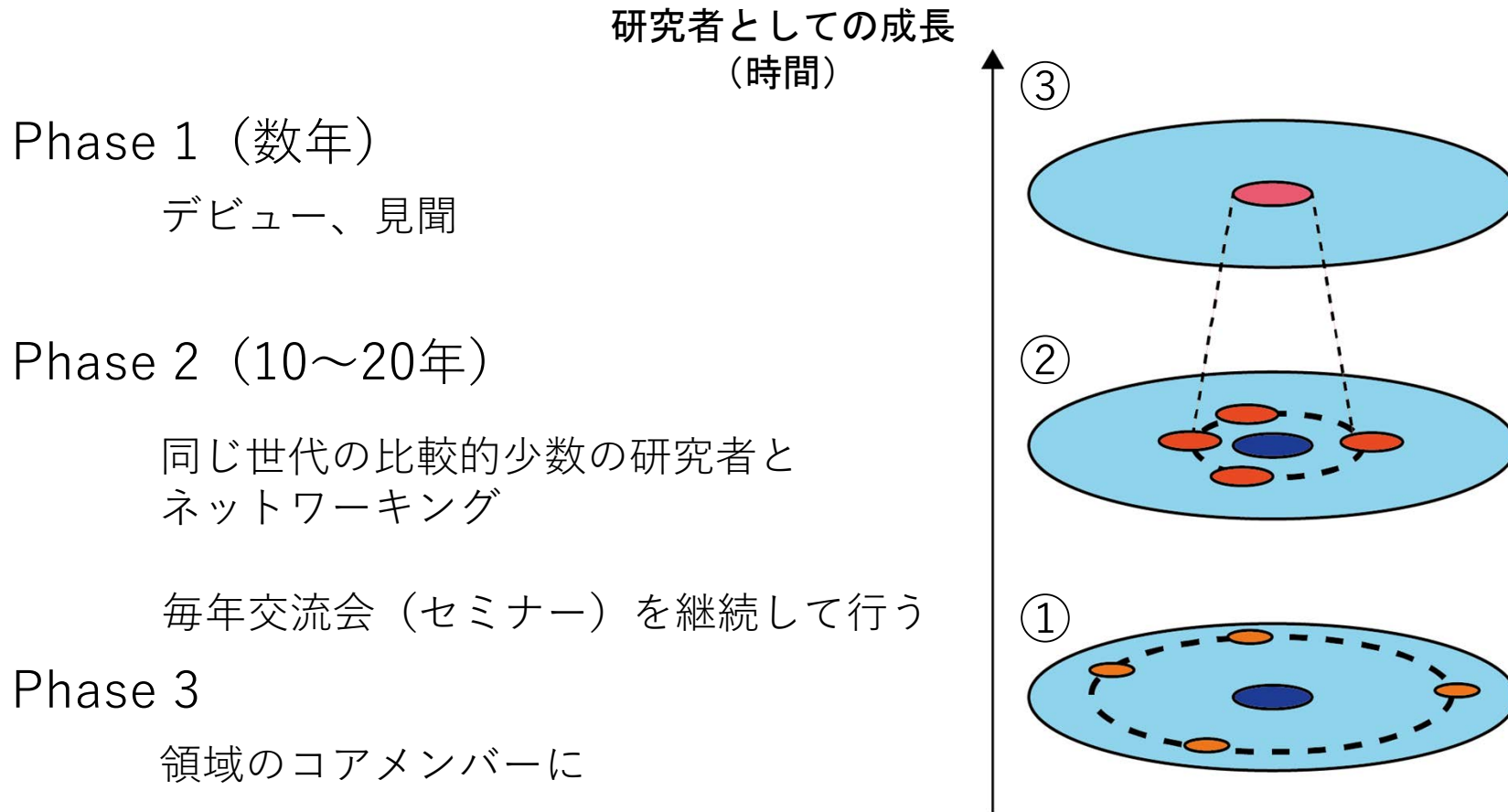
Phase 2 (10～20年)

同じ世代の比較的少数の研究者と
ネットワーキング

毎年交流会 (セミナー) を継続して行う



研究者が国際ネットワークを作るには



研究領域での緊密なサークル形成

研究者としての成長
(時間)

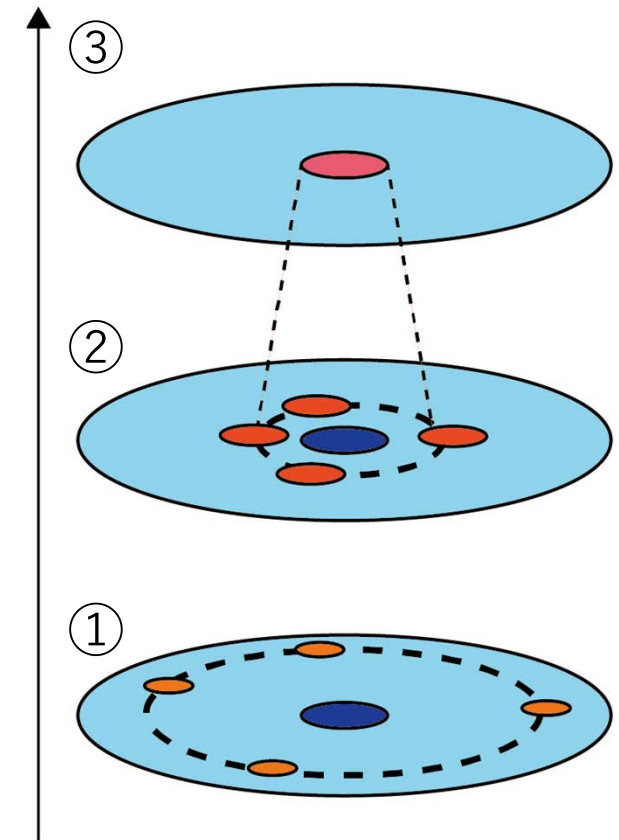
Phase 2

同世代の研究者と定期的なワークショップを開催する



?

リスボン



L-INSIGHT フェロー採択期間（3年）のイメージ

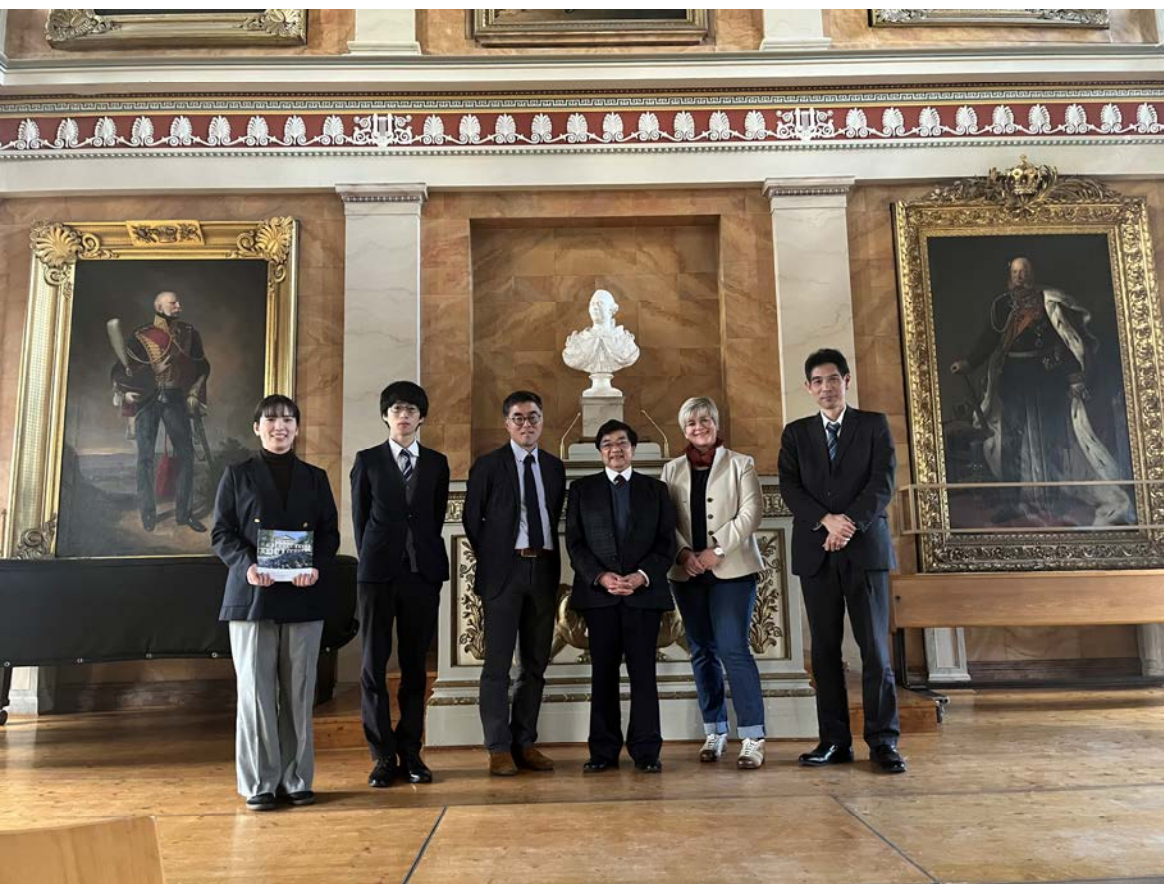
公募によるフェロー選考
(6～7名/年)



L-INSIGHT拠点特定教員
京大欧州戦略拠点
HeKKSaGOn事務局

- OIST
- メルボルン大学
- ドイツ ハイデルベルク大学・ゲッチンゲン大学・カールスルーエ工科大学 (HeKKSaGOn)

謝辞



- 京都大学KURA、研究推進部、L-INSIGHT拠点
- 文科省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」
- JST 科学技術イノベーション人材育成室

24/01/31 ゲッティンゲン大学